

(様式第10)

兵 医 法 第 8 9 号
令 和 元 年 9 月 27 日

厚生労働大臣

殿

開設者名
学校法人 兵庫医科大学
開設者名 理事長 太城 力良 (印)

兵庫医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成**30**年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
氏 名	学校法人 兵庫医科大学 理事長 太城 力良

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

兵庫医科大学病院

3 所在の場所

〒 663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号 電話(0798) 45-6111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	☒ 有 ・ ☐ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
① 呼吸器内科	② 消化器内科	③ 循環器内科	4 腎臓内科
5 神経内科	⑥ 血液内科	7 内分泌内科	8 代謝内科
9 感染症内科	⑩ アレルギー疾患内科またはアレルギー科		⑪ リウマチ科
診療実績			
・ 内分泌内科、代謝内科の診療内容は「内分泌・代謝内科」で提供。 ・ 腎臓内科の診療内容は、「腎臓・人工透析内科」で提供。 ・ 感染症内科の診療内容は、主として総合内科および感染制御部で提供 ・ 神経内科の診療内容は、「脳神経内科」で提供。			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	☒ 有 ・ ☐ 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科	② 消化器外科
③ 乳腺外科	④ 心臓外科
⑤ 血管外科	⑥ 心臓血管外科
⑦ 内分泌外科	⑧ 小児外科
診療実績 ・ 乳腺外科、内分泌外科の診療内容は「乳腺・内分泌外科」で提供。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科
⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科	⑧ 産科	⑨ 婦人科	⑩ 眼科
⑪ 耳鼻咽喉科	⑫ 放射線科	⑬ 放射線診断科	⑭ 放射線治療科	⑮ 麻酔科
⑯ 救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☒ 有 ・ ☐ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科	2 矯正歯科
3 口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科	2 臨床検査科	3 病理診断科	4 糖尿病内科	5 肝臓・胆のう・膵臓内科
6 腫瘍内科	7 形成外科	8 美容外科	9 頭頸部外科	10 ペインクリニック・疼痛緩和外科
11 内分泌・代謝内科	12 脳神経内科	13 腎臓・人工透析内科	14 乳腺・内分泌外科	15 歯科口腔外科
16	17	18	19	20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
44 床	0 床	0 床	0 床	919 床	963 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	623 人	204 人	657.9 人	看護補助者	129 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	23 人	9 人	27.0 人	理学療法士	35 人	臨床検査技師	102 人
薬剤師	70 人	0 人	70.0 人	作業療法士	12 人	検査衛生検査技師	0 人
保健師	0 人	0 人	0.0 人	視能訓練士	16 人	その他	0 人
助産師	33 人	0 人	33.0 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看護師	971 人	36 人	993.5 人	臨床工学士	21 人	医療社会事業従事者	11 人
准看護師	1 人	7 人	4.0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	19 人
歯科衛生士	5 人	0 人	5.0 人	歯科技工士	2 人	事 務 職 員	235 人
管理栄養士	8 人	0 人	8.0 人	診療放射線技師	52 人	その他の職員	84 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総 合 内 科 専 門 医	48 人	眼 科 専 門 医	13 人
外 科 専 門 医	55 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	12 人
精 神 科 専 門 医	10 人	放 射 線 科 専 門 医	1 人
小 児 科 専 門 医	17 人	脳神経外科専門医	11 人
皮 膚 科 専 門 医	6 人	整 形 外 科 専 門 医	15 人
泌 尿 器 科 専 門 医	9 人	麻 酔 科 専 門 医	21 人
産 婦 人 科 専 門 医	17 人	救 急 科 専 門 医	4 人
合 計			239 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (阪上 雅史) 任命年月日 2019年4月1日

医療安全管理部長、医療安全管理委員会委員長 2012.4-2017.3
医療安全管理責任者 2016.10-2017.3

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	752.4人	10.7人	763.1人
1日当たり平均外来患者数	1,730.2人	70.0人	1,800.2人
1日当たり平均調剤数	2,475.1 剤		
必要医師数	181.0人		
必要歯科医師数	6.0人		
必要薬剤師数	31.0人		
必要（准）看護師数	445.0人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	450.40 m ²	鉄筋コンクリート (RC)	病 床 数	20 床	心電計	☒ 有 ・ ☐ 無
			人工呼吸装置	☒ 有 ・ ☐ 無	心細動除去装置	☒ 有 ・ ☐ 無
			その他の救急蘇生装置	☒ 有 ・ ☐ 無	ペースメーカー	☒ 有 ・ ☐ 無
無菌病室等	〔固定式の場合〕床面積		339.44 m ²	病床数	22 床	
	〔移動式の場合〕台 数		台	病床数	床	
医 薬 品 情報管理室	〔専用室の場合〕床面積		41.95 m ²			
	〔共用室の場合〕共用する室名					
化学検査室	159.50 m ²	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備)	自動分析装置LABOSPECT008、 ディメンションRXL、Cobas8000		
細菌検査室	145.90 m ²	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備)	Auto-Scan W/A、バクテアラート3D、 MGIT、Taqman		
病理検査室	208.90 m ²	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備)	クリオスタット、連続迅速自動固定包埋装置		
病理解剖室	110.70 m ²	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備)	解剖台、サクラリサイクラー、エコプロセス		
研 究 室	17,124.80 m ²	鉄骨造 (S)	(主な設備)	CO2インキュベーター、オートクレーブ、 オールインワン蛍光顕微鏡、 リアルタイムPCRシステム		
講 義 室	2,006.60 m ²	鉄筋コンクリート (RC)	室数	15 室	収容定員	1,481 人
図 書 室	1,128.00 m ²	鉄筋コンクリート (RC)	室数	1 室	蔵書数	67,550 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		88.30 %	逆紹介率	64.6 %
算出根拠	A：紹介患者の数		25,272 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19,480 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,352 人	
	D：初診の患者の数		30,137 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
村尾 仁	大阪医科大学付属病院	○	医師	☐ 有 ・ ☒ 無	1
夏住 要一郎	色川法律事務所		弁護士	☐ 有 ・ ☒ 無	1
中西 清			医療を受ける者 (公認会計士)	☐ 有 ・ ☒ 無	2
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
公表の方法	
病院公式ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	61人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
アルテプラザーゼ静脈内投与による血栓溶解療法 急性脳梗塞(当該疾病の症状の発症時刻が明らかでない場合に限る。)	0人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	0人
S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん(ステージがⅢ期若しくはⅣ期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	肝以外の腫瘍に対するラジオ波凝固治療	取扱患者数	44人
当該医療技術の概要 肺、腎臓、副腎、骨・軟部腫瘍の外科的切除が困難な患者に対して、局所麻酔下で経皮的に施行可能なラジオ波凝固治療を施行し、より低侵襲な治療を提供している。			
医療技術名	骨軟部腫瘍に対する経皮的凍結治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 他の治療法が有効でなかった骨軟部腫瘍の患者に対し経皮的凍結治療を施行する。治療領域が確認できることで、神経損傷を回避しやすくなり、手技中の疼痛も少ないという利点がある。さらに、良好な除痛効果や腫瘍縮小効果が期待できる治療法である。			
医療技術名	遺伝子パネル検査「P5がんゲノムレポートプラス」	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 採取したがん組織からDNAとRNAを抽出し複数の遺伝子に生じた変異を調べる検査であり、検査の実施は外部の検査会社に委託して行なう。P5がんゲノムレポートプラスにおいては161遺伝子の解析を行なう。			
医療技術名	遺伝子パネル「PleSSion検査」	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 採取したがん組織からDNAとRNAを抽出し複数の遺伝子に生じた変異を調べる検査であり、検査の実施は外部の検査会社に委託して行なう。PleSSion検査においては160遺伝子の解析を行なう。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 カテーテルを用いて大動脈弁を人工弁に置き換える治療法。従来の開胸大動脈弁置換術よりも低侵襲であり、手術が困難と判断された高齢者でも可能な大動脈弁狭窄症の治療法である。			
医療技術名	腹腔鏡下胃切除術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要 体への負担が少なく、より正確で安全性の高い操作が可能な手術支援ロボットによる低侵襲な胃癌の手術。			
医療技術名	腹腔鏡下直腸切除・切断術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 手術支援ロボットにより、従来の腹腔鏡よりも緻密な手術が可能になり、機能温存が重要な直腸がんの手術に有用な治療法である。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	56	ベーチェット病	114
2	筋萎縮性側索硬化症	22	57	特発性拡張型心筋症	42
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	肥大型心筋症	8
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	14	60	再生不良性貧血	43
6	パーキンソン病	245	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	8	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	65
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	12
10	シャルコー・マリー・トゥース病	5	65	原発性免疫不全症候群	11
11	重症筋無力症	196	66	IgA 腎症	21
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	23
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	116	68	黄色靱帯骨化症	12
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	33	69	後縦靱帯骨化症	81
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	46
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	40
17	多系統萎縮症	24	72	下垂体性ADH分泌異常症	12
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	54	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	10
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	3
21	ミトコンドリア病	1	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	34	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	27
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	90
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	10	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	1	84	サルコイドーシス	43
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	47
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	3
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1
34	神経線維腫症	6	89	リンパ管筋腫症	5
35	天疱瘡	12	90	網膜色素変性症	24
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	10	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	37
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	4
40	高安動脈炎	19	95	自己免疫性肝炎	17
41	巨細胞性動脈炎	5	96	クローン病	1622
42	結節性多発動脈炎	11	97	潰瘍性大腸炎	1787
43	顕微鏡的多発血管炎	32	98	好酸球性消化管疾患	11
44	多発血管炎性肉芽腫症	28	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	3
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	12	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	32	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	6	103	GFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	350	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	138	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	167	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	57	107	全身型若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	58	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	18	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	0	161 家族性良性慢性天疱瘡	0
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	12
113 筋ジストロフィー	8	163 特発性後天性全身性無汗症	0
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164 眼皮膚白皮症	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0	165 肥厚性皮膚骨膜炎	0
116 アトピー性脊髄炎	0	166 弾性線維性仮性黄色腫	0
117 脊髄空洞症	1	167 マルフアン症候群	3
118 脊髄髄膜瘤	0	168 エーラス・ダンロス症候群	1
119 アイザックス症候群	4	169 メンケス病	0
120 遺伝性ジストニア	0	170 オクシピタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0	171 ウィルソン病	1
122 脳表ヘモジデリン沈着症	0	172 低ホスファターゼ症	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173 VATER症候群	1
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174 那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175 ウィーバー症候群	0
126 ベリー症候群	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	1	177 有馬症候群	0
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178 モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179 ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	180 ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0	181 クルーゾン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0	182 アペール症候群	0
133 メビウス症候群	0	183 ファイファー症候群	0
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184 アントレー・ピクスラー症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	185 コフィン・シリズ症候群	0
136 片側巨脳症	0	186 ロスマンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	0	187 歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	0	188 多脾症候群	0
139 先天性大脳白質形成不全症	0	189 無脾症候群	0
140 ドラベ症候群	0	190 鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191 ウェルナー症候群	0
142 ミオクロニー欠伸てんかん	0	192 コケイン症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193 ブラダー・ウィリ症候群	0
144 レノックス・ガストー症候群	0	194 ソース症候群	0
145 ウエスト症候群	0	195 ヌーナン症候群	0
146 大田原症候群	0	196 ヤング・シンプソン症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	0	197 1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198 4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199 5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151 ラスムッセン脳炎	0	201 アンジェルマン症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0	202 スミス・マギニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203 22q11.2欠失症候群	0
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204 エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0	205 脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	0	206 脆弱X症候群	0
157 スタージ・ウェーバー症候群	0	207 総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	3	208 修正大血管転位症	0
159 色素性乾皮症	0	209 完全大血管転位症	0
160 先天性魚鱗癬	2	210 単心室症	0

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
211 左心低形成症候群	0	259 レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212 三尖弁閉鎖症	0	260 シトステロール血症	0
213 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261 タンジール病	0
214 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262 原発性高カイトロミクロン血症	0
215 ファロー四徴症	0	263 脳腫黄色腫症	0
216 両大血管右室起始症	2	264 無 β リポタンパク血症	0
217 エプスタイン病	0	265 脂肪萎縮症	0
218 アルポート症候群	0	266 家族性地中海熱	7
219 ギャロウェイ・モフト症候群	0	267 高IgD症候群	0
220 急速進行性糸球体腎炎	2	268 中條・西村症候群	0
221 抗糸球体基底膜腎炎	0	269 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222 一次性ネフローゼ症候群	17	270 慢性再発性多発性骨髄炎	0
223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271 強直性脊椎炎	9
224 紫斑病性腎炎	2	272 進行性骨化性線維異形成症	0
225 先天性腎性尿崩症	1	273 肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226 間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274 骨形成不全症	0
227 オスラー病	0	275 タナトフォリック骨異形成症	0
228 閉塞性細気管支炎	0	276 軟骨無形成症	0
229 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277 リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230 肺胞低換気症候群	0	278 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231 α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232 カーニー複合	0	280 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病)	0
233 ウォルフラム症候群	0	281 クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234 ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282 先天性赤血球形成異常性貧血	0
235 副甲状腺機能低下症	2	283 後天性赤芽球癆	0
236 偽性副甲状腺機能低下症	0	284 ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237 副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285 ファンconi貧血	0
238 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286 遺伝性鉄芽球性貧血	0
239 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287 エプスタイン症候群	0
240 フェニルケトン尿症	0	288 自己免疫性出血病XIII	7
241 高チロシン血症1型	0	289 クロンカイト・カナダ症候群	8
242 高チロシン血症2型	0	290 非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243 高チロシン血症3型	0	291 ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244 メーブルシロップ尿症	0	292 総排泄腔外反症	0
245 プロピオン酸血症	0	293 総排泄腔遺残	0
246 メチルマロン酸血症	0	294 先天性横隔膜ヘルニア	0
247 イソ吉草酸血症	0	295 乳幼児肝巨大血管腫	0
248 グルコーストランスporter1欠損症	0	296 胆道閉鎖症	0
249 グルタル酸血症1型	0	297 アラジール症候群	1
250 グルタル酸血症2型	0	298 遺伝性膀胱炎	2
251 尿素サイクル異常症	0	299 嚢胞性線維症	0
252 リジン尿性蛋白不耐症	0	300 IgG4関連疾患	8
253 先天性葉酸吸収不全	0	301 黄斑ジストロフィー	2
254 ポルフィリン症	0	302 レーベル遺伝性視神経症	3
255 複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303 アッシュヤー症候群	0
256 筋型糖原病	0	304 若年発症型両側性感音難聴	0
257 肝型糖原病	0	305 遅発性内リンパ水腫	0
258 ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306 好酸球性副鼻腔炎	97

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／LMX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	3
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	6

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算2
・歯科外来診療環境体制加算2	・入退院支援加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・入退院支援加算3
・特定機能病院入院基本料	・認知症ケア加算1
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算2	・救命救急入院料1
・医師事務作業補助体制加算1	・救命救急入院料4
・急性期看護補助体制加算	・特定集中治療室管理料1
・看護職員夜間配置加算2	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・看護補助加算2	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・無菌治療室管理加算2	・新生児治療回復室入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・小児入院医療管理料2
・精神病棟入院時医学管理加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	
・後発医薬品使用体制加算1	
・病棟薬剤業務実施加算1	
・病棟薬剤業務実施加算2	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
・ウイルス疾患指導料	・遺伝学的検査
・糖尿病合併症管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・がん患者指導管理料イ	・検体検査管理加算(IV)
・がん患者指導管理料ロ	・国際標準検査管理加算
・がん患者指導管理料ハ	・遺伝カウンセリング加算
・外来緩和ケア管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・胎児心エコー法
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・糖尿病透析予防指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・外来放射線照射診療料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・ニコチン依存症管理料	・神経学的検査
・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	・補聴器適合検査
・開放型病院共同指導料	・ロービジョン検査判断料
・がん治療連携計画策定料	・コンタクトレンズ検査料1
・排尿自立指導料	・小児食物アレルギー負荷検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・内服・点滴誘発試験
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・画像診断管理加算3
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ポジトロン断層撮影
・薬剤管理指導料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料1	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料2	・外傷全身CT加算
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・心臓MRI撮影加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・乳房MRI撮影加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・頭部MRI撮影加算	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・外来化学療法加算1	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・無菌製剤処理料	・羊膜移植術
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・網膜再建術
・がん患者リハビリテーション料	・人工中耳植込術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・精神科作業療法	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・認知療法・認知行動療法1	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・医療保護入院等診療料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・口腔粘膜処置	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・レーザー機器加算	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・人工腎臓	・食道縫合術(穿刺、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・胸腔鏡下弁形成術
・CAD/CAM冠	・経カテーテル大動脈弁置換術
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2	・胸腔鏡下弁置換術
・センチネルリンパ節加算	・経皮的中隔心筋焼灼術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・輸血管理料Ⅰ
・補助人工心臓	・輸血適正使用加算
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・コーディネート体制充実加算
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・自己生体組織接着剤作成術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯周組織再生誘導手術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・腹腔鏡下肝切除術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・生体部分肝移植術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膝腫瘍摘出術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下膝体尾部腫瘍切除術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	・1回線量増加加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療
・同種死体腎移植術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・生体腎移植術	・画像誘導密封小線源治療加算
・膀胱水压拡張術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・保健医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・人工尿道括約筋植込・置換術	・保健医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・デジタル病理画像による病理診断

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・記載事項なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	約200回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 10 例 ／ 剖検率 1.9 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
農村型ライフスタイルから探るフレイル予知法と予防戦略	新村 健	総合内科	5,070,000	補委	日本学術振興会
脳卒中の帰結予測とリハビリテーション栄養：MRI脳画像による予測と必要熱量の推定	小山 哲男	リハビリテーション部	3,380,000	補委	日本学術振興会
特殊な変異を有するGISTに対する特異抗体を用いた診断法の開発と治療への応用	廣田 誠一	病院病理部	5,070,000	補委	日本学術振興会
進化する医療光学技術に対応する新しい消化器解剖図の作成ー腸間膜可視化プロジェクト	篠原 尚	上部消化管外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
東アジアにおける筋ジストロフィーオーダーメイド治療開発のための分子疫学的調査	竹島 泰弘	小児科	3,640,000	補委	日本学術振興会
重度の上肢麻痺に対するニューロフィードバックを併用した複合的CI療法の開発	道免 和久	リハビリテーション部	11,440,000	補委	日本学術振興会
臍帯血と臍帯由来間葉系幹細胞の骨髄内共移植による新たな治療戦略	岡田 昌也	血液内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
トランスフェリン受容体1を介した心血管病の病態発症機構の解明と新規治療法の開発	内藤 由朗	循環器内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
機能性消化管疾患における生体粘膜上皮バリア機能評価法の開発とその応用	大島 忠之	消化管内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
我が国における非心臓性胸痛(NCCP)の実態調査とその病態の解明	三輪 洋人	消化管内科	910,000	補委	日本学術振興会
肝癌由来増殖因子とヌクレオリンの機能解析による新たな肝癌治療の開発	榎本 平之	肝胆膵内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病での治療によるフラタキシンの回復と合併症の予防	蓮池 由起子	腎透析内科	130,000	補委	日本学術振興会
動脈硬化進展における鉄の関与の解明	木田 有利	腎透析内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
小児腹部手術周術期におけるグレリンの病態生理学的意義の検討と臨床応用に向けた研究	銭谷 昌弘	小児外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
低酸素応答システムからみた肝動脈塞栓術後の肝癌再発機序解明と、新規治療戦略開発	高木 治行	放射線科	1,170,000	補委	日本学術振興会
治療抵抗性の肝転移に対する球状塞栓物質を用いた肝動脈塞栓療法：多施設共同臨床試験	山門 亨一郎	放射線科	1,820,000	補委	日本学術振興会
従来の肝動脈塞栓術不応後の肝細胞癌に対する球状塞栓物質を用いた肝動脈化学塞栓療法	石蔵 礼一	放射線科	1,820,000	補委	日本学術振興会

妊娠の成立と維持に関する新しい免疫担当細胞の同定と機能解析	福井 淳史	産科婦人科	1,170,000	補委	日本学術振興会
子宮体癌におけるイトラコナゾールの抗腫瘍効果解析及びレスポンドアの同定	鏑本 浩志	産科婦人科	1,300,000	補委	日本学術振興会
CD8陽性T細胞におけるIL-18によるオートファジーと腫瘍免疫に関する研究	都築 建三	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ハイブリッド型人工神経を用いた端側型神経移植における神経再生様式の解析	垣淵 正男	形成外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
口腔癌への癌化学療法がもたらすゲノムの加速的変化と治療抵抗性獲得メカニズムの解析	野口 一馬	歯科口腔外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
がん微小環境を持つヒト化マウスを用いた造血器腫瘍（多発性骨髄腫）の免疫療法モデル	吉原 哲	輸血・細胞治療センター	1,560,000	補委	日本学術振興会
胎児附属物由来間葉系幹細胞による造血幹細胞移植後合併症の治療開発	藤盛 好啓	血液内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
BAP1遺伝子変異を基盤とした悪性中皮腫の発生機序および病態の解析	辻村 亨	病院病理部	1,430,000	補委	日本学術振興会
小児入院患者の周術期医原性有害事象に対する要因分析	太田 好紀	総合内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
炎症性消化管疾患における Reg 蛋白の消化管粘膜防御機序に関する研究	福井 広一	消化管内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
IgA腎症発症・進展に関わる口腔および消化管細菌叢の関与の解明	長澤 康行	腎透析内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
筋ジストロフィーエクソンスキッピング誘導治療の非侵襲的効果予測系の構築	竹島 泰弘	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
「オムツの取れない」年代での排尿測定システムの臨床応用	兼松 明弘	泌尿器科	910,000	補委	日本学術振興会
警告因子活性化による皮膚疾患の機能ゲノミクス解析	山西 清文	皮膚科	1,690,000	補委	日本学術振興会
うつ病合併妊婦に対する心理教育と対人関係療法の無作為化比較試験	清野 仁美	精神科神経科	650,000	補委	日本学術振興会
PDXを用いた難治性大腸癌の病態解明と薬剤耐性メカニズムの解明	富田 尚裕	下部消化管外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
脳出血に対するヒト脂肪組織由来幹細胞を用いた神経再生療法	高木 俊範	脳神経外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
子宮頸癌におけるイトラコナゾールの抗腫瘍効果解析及びレスポンドアの同定	井上 佳代	産科婦人科	1,170,000	補委	日本学術振興会
舌骨上筋群の脂肪化が嚥下機能に与える影響-画像診断を用いた検討	本田 公亮	歯科口腔外科	520,000	補委	日本学術振興会

エプスタイン・バー・ウイルス関連腫瘍の進展阻止をめざすPD-L1発現抑制法の開発	松田 育雄	病院病理部	1,820,000	補委	日本学術振興会
筋強直性ジストロフィー患者脳における肉眼的および顕微鏡的病態多様性の検討	木村 卓	脳神経内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
摂食障害の予防と啓蒙についての調査研究ー痩せすぎモデル規制の影響の検討ー	山田 恒	精神科神経科	1,040,000	補委	日本学術振興会
超音波医学と形態学を駆使した肝発癌リスク予測と非侵襲的線維化・脂肪化診断法の確立	飯島 尋子	超音波センター	1,820,000	補委	日本学術振興会
寛解後炎症性腸疾患患者に残存する消化器症状発現メカニズムの解明	富田 寿彦	内視鏡センター	2,080,000	補委	日本学術振興会
機能性消化管障害の新規治療標的の探索ー粘膜内微小炎症による知覚受容の増強ー	近藤 隆	消化管内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
多層的オミックス解析データから心不全診断における新たな層別化への展開	朝倉 正紀	循環器内科	650,000	補委	日本学術振興会
多重遺伝子変異導入モデルマウスを用いた悪性中皮腫発症機序解明と治療標的分子の探索	木島 貴志	呼吸器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
IL-33によって誘導される皮膚炎の分子病態に関する研究	今井 康友	皮膚科	1,690,000	補委	日本学術振興会
複数回の造血幹細胞移植後にもかかわらず再発した白血病細胞の免疫回避機構の解明	池亀 和博	血液内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
代謝異常と認知機能の関連に及ぼす睡眠障害の影響	小山 英則	糖尿病・内分泌・代謝内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
腎芽腫における術前画像リスク因子と血清遊離核酸による診断を用いた新規治療法の開発	大植 孝治	小児外科	910,000	補委	日本学術振興会
遷延性術後痛の発症メカニズムの解明	廣瀬 宗孝	麻酔科・疼痛制御科	1,430,000	補委	日本学術振興会
腫瘍関連マクロファージをターゲットにしたIL-18免疫療法の可能性	山田 直子	病院病理部	1,430,000	補委	日本学術振興会
咽頭・喉頭の感覚刺激と嚥下誘発ー誤嚥リスク解明に向けての臨床研究	任 智美	耳鼻咽喉・頭頸部外科	3,510,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌における新規リンパ管新生抑制因子によるリンパ行性転移の抑制	山根木 康嗣	病院病理部	1,820,000	補委	日本学術振興会
骨微小環境における老化の解明	高岡 一樹	歯科口腔外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
小児片麻痺に対するCI療法の神経基盤と長期効果の解明	児玉 典彦	リハビリテーション部	1,430,000	補委	日本学術振興会
ジストロフィン遺伝子微小変異症例の解析によるスプライシング促進配列の同定	下村 英毅	小児科	1,170,000	補委	日本学術振興会

浅大腿動脈病変に対しての血管内治療における至適ステント径の検討	三木 孝次郎	冠疾患内科	2,340,000	補 委	日本学術振興会
悪性中皮腫におけるオートファジー活性化機序の解明と新規診断法、治療法への応用	篠原 義康	病院病理部	2,080,000	補 委	日本学術振興会
IL-33受容体陽性細胞がアトピー性疾患に与える影響の研究	永井 諒	皮膚科	2,080,000	補 委	日本学術振興会
うつ病へのインターロイキン18の作用解明と新規治療戦略の模索	山西 恭輔	精神科神経科	1,690,000	補 委	日本学術振興会
イントロン内配列制御による筋ジストロフィーエクソンスキッピング治療効率化の検証	李 知子	小児科	1,820,000	補 委	日本学術振興会
アスベストにより惹起される自然免疫系炎症をターゲットとした悪性胸膜中皮腫の創薬	南 俊行	呼吸器内科	1,820,000	補 委	日本学術振興会
癌幹細胞化によるEGFR-TKI耐性獲得の機序とその克服	金村 晋吾	呼吸器内科	1,820,000	補 委	日本学術振興会
RAGEによる視床下部の炎症調節機構とそれに伴う摂食、代謝への影響の解明	小西 康輔	糖尿病・内分泌・代謝内科	910,000	補 委	日本学術振興会
羊膜由来幹細胞を用いた脳梗塞治療の基礎的研究	白川 学	脳神経外科	2,210,000	補 委	日本学術振興会
メラトニンレセプター制御による緑内障性視神経障害に対する神経保護に関する検討	田片 将士	眼科	910,000	補 委	日本学術振興会
口腔癌のリンパ節転移におけるリンパ節ストローマ細胞と免疫寛容のメカニズムについて	吉川 恭平	歯科口腔外科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
骨微小環境におけるSASP因子の関与	玉岡 丈二	歯科口腔外科	1,950,000	補 委	日本学術振興会
2型糖尿病発症とインスリン初期分泌低下への自律神経機能の影響に関するコホート研究	角谷 美樹	糖尿病・内分泌・代謝内科	780,000	補 委	日本学術振興会
造血幹細胞移植患者の無菌室内における身体活動量と筋有酸素能との関連性	若杉 樹史	リハビリテーション部	530,000	補 委	日本学術振興会
安全な薬物治療をリアルタイムで支援する臨床決断支援システムの開発に関する研究	森本 剛	臨床研究支援センター	15,000,000	補 委	厚生労働省
指定難病に該当する胎児・新生児骨系統疾患の現状調査と診療ガイドラインの改定に関する研究	澤井 英明	臨床遺伝部	14,950,000	補 委	厚生労働省
ヒト脳傷害誘導性神経幹細胞を用いた神経再生療法	高木 俊範	脳神経外科学	13,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
羊膜由来間葉系幹細胞の再生医療製品化と急性GVHDに対する治療応用	山原 研一	輸血・細胞治療センター	80,320,000	補 委	日本医療研究開発機構
自己免疫制御を機序とする新規シェーグレン症候群治療薬の探索	西浦 弘志	病院病理部	7,499,800	補 委	日本医療研究開発機構

-
1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
 3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Wakasugi Tatsushi, Morishita Shinichiro, Kaida Katsuji 他	リハビリテーション部	Hemoglobin Dynamics in the Skeletal Muscle of Patients with Malignant Hematopoietic Disease.	Adv Exp Med Biol, 1072, 287-291, Sep, 2018	OriginalArticle
2	Oshima Tadayuki, Arai Eitatsu, Taki Masato 他	消化管内科	Randomised clinical trial: vonoprazan versus lansoprazole for the initial relief of heartburn in patients with erosive oesophagitis	Aliment Pharmacol Ther., (15062), 140-146, Oct, 2018	OriginalArticle
3	Kazuma Hashimoto, Ayano Tsuji, Shiko Takenaka 他	麻酔科学・疼痛制御科	C-reactive Protein Level on Postoperative Days One is Associated with Chronic Postsurgical Pain After Mastectomy	Anesth Pain Med., 8(4), 1-5, Aug, 2018	OriginalArticle
4	Enomoto Hirayuki, Aizawa Nobuhiro, Ikeda Naoto, 他	肝・胆・膵内科	Association of the Body Mass Index with the Presence of Gastroesophageal Varices in Compensated Cirrhotic Patients with Hepatitis C Viral Infection.	Ann Clin Lab Sci., 48(6), 801-804, Nov, 2018	OriginalArticle
5	Futani Hiroyuki, Kumamishi Shunsuke, Minakawa Go 他	整形外科	Osteoscopic Surgery of Giant Cell Tumor of Bone for Preservation of Proximal Fibula.	Anticancer Res, 38(5), 2995-3000, May, 2018	OriginalArticle
6	Inoue Kayo, Tsubamoto Hiroshi, Isono-Nakata Roze, Sakata Kazuko 他	産科婦人科	Itraconazole treatment of primary malignant melanoma of the vagina evaluated using positron emission tomography and tissue cDNA microarray: a case report.	BMC Cancer., 18(1), 630-6, Jun, 2018	CaseReport
7	Matsuda Ikuo, Hirota Seiichi	病院病理部	Pautrier-like microabscesses in the tonsil.	Blood, 131(19), 2177, May, 2018	CaseReport
8	Tsuneo Tatara	麻酔科学・疼痛制御科	Contrasting effects of albumin and hydroxyethyl starch solutions on physical properties of sodium hyaluronate solution	Carbohydr Polym., 201, 60-64, Dec, 2018	OriginalArticle
9	Masai Kumiko, Mano Toshiaki, Goda Akiko, Sugahara Masataka 他	循環器内科	Correlates and Prognostic Values of Appearance of L Wave in Heart Failure Patients With Preserved vs. Reduced Ejection Fraction.	Circ J, 82(9), 2311-6, Aug, 2018	OriginalArticle
10	Okada Masaya, Imagawa Jun, Tanaka Hideo 他	血液内科	Final 3-year Results of the Dasatinib Discontinuation Trial in Patients With Chronic Myeloid Leukemia Who Received Dasatinib as a Second-line Treatment.	Clin Lymphoma Myeloma Leuk, 18(5), 353-360, May, 2018	OriginalArticle
11	Iida Tomoko, Tomogane Yusuke, Takagi Toshinori 他	脳神経外科	Grading of astrocytomas using the PRESTO (principles of echo-shifting with a train of observations) magnetic resonance imaging sequence.	Clin Neurol Neurosurg, 173, 91-95, Jul, 2018	OriginalArticle
12	Kawanaka Yusuke, Kitajima Kazuhiro, Yamamoto Shingo 他	放射線科	Comparison of 11C-choline Positron Emission Tomography/Computed Tomography (PET/CT) and Conventional Imaging for Detection of Recurrent Prostate Cancer.	Cureus, 10(7), e2966, Jul, 2018	OriginalArticle
13	Kitajima Kazuhiro, Yamamoto Shingo, Kamikonya Norihiko 他	核医学・PET診療部	The Potential Use of 11C-Choline Positron Emission Tomography/Computed Tomography to Monitor the Treatment Effects of Radium-223 in a Patient with Prostate Cancer.	Cureus, 10(7), e2948, Jul, 2018	OriginalArticle
14	Tomita Toshihiko, Oshima Tadayuki, Miwa Hiroto 他	消化管内科	New Approaches to Diagnosis and Treatment of Functional Dyspepsia	Curr Gastroenterol Rep., 20(55), 12-18, Oct, 2018	OriginalArticle
15	Nagai Makoto, Imai Yasutomo, Wada Yoshihiro 他	皮膚科	Serum procalcitonin and presepsin levels in patients with generalized pustular psoriasis.	Dis Markers, 2018, 9758473, Dec, 2018	OriginalArticle
16	Iseki Takuya, Tsukada Sachiyuki, Wakui Motohiro 他	整形外科	Intravenous tranexamic acid only versus combined intravenous and intra-articular tranexamic acid for perioperative blood loss in patients undergoing total knee arthroplasty.	Eur J Orthop Surg Traumatol, 28(7), 1397-1402, Oct, 2018	OriginalArticle
17	Inoue Kayo, Tsubamoto Hiroshi, Ishida-Nisigami Keiko 他	産科婦人科	Pazopanib treatment of a platinum-resistant recurrence of a high-grade Sertoli cell tumor and assessment of the treatment response by FDG-PET/CT: A case report.	Gynecol Oncol Rep, 24, 54-56, May, 2018	CaseReport
18	Mitsuru Masaki, Kumi Koide, Akiko Goda 他	臨床検査科	Effect of acute aerobic exercise on arterial stiffness and thyroid-stimulating hormone in subclinical hypothyroidism.	Heart Vessels, 380, 1-8, Feb, 2019	others
19	Okuno Keisuke, Naito Yoshiro, Yasumura Seiki 他	循環器内科	Influence of dietary iron intake restriction on the development of hypertension in weanling prehypertensive rats.	Heart Vessels, 33(7), 820-5, Jul, 2018	OriginalArticle
20	Masai Kumiko, Kishima Hideyuki, Takahashi Satoshi 他	循環器内科	Interatrial septal motion as a novel index to predict left atrial pressure.	Heart Vessels, 33(7), 762-9, Jul, 2018	OriginalArticle

21	Kishima Hideyuki, Mine Takanao, Takahashi Satoshi 他	冠疾患内科	Left atrial pressure pattern without a-wave in sinus rhythm after cardioversion affects the outcomes after catheter ablation for atrial fibrillation.	Heart Vessels, 33(11), 1365-72, Nov, 2018	OriginalArticle
22	Hasegawa Kunihiro, Nishikawa Hiroki, Enomoto Hirayuki 他	肝・胆・膵内科	Proposed model for the prediction of intrahepatic covalently closed circular DNA level in patients with chronic hepatitis B.	Hepatol Res, 49(3), 271-283, Mar, 2019	OriginalArticle
23	Tomoko Lee, Maiko Misaki, Hideki Shimomura 他	小児科	Late-onset ornithine transcarbamylase deficiency caused by a somatic mosaic mutation	Hum Genome Var. , (16), 5-22, Aug, 2018	CaseReport
24	Nagasawa Yasuyuki, Kida Aritoshi, Hasuike Yukiko 他	腎・透析内科	White-coat hypertension and albuminuria: lessons from the Hisayama and Ohasama studies.	Hypertens Res, 41(7), 483-485, Jul, 2018	OriginalArticle
25	Negi Yoshiki, Kuribayashi Kozo, Funaguchi Norihiko 他	呼吸器内科	Early-stage Clinical Characterization of Malignant Pleural Mesothelioma.	In Vivo, 32(5), 1169-1174, Sep, 2018	OriginalArticle
26	Kida Kota, Terada Tomonori, Uwa Nobuhiro 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Relationship Between p16 Expression and Prognosis in Patients with Oropharyngeal Cancer Undergoing Surgery	In Vivo, 32(4), 927-35, Jul, 2018	OriginalArticle
27	Hikasa Shinichi, Shimabukuro Shota, Hideta Kyoko 他	薬剤部	Urinary liver-type fatty acid-binding protein levels as a potential risk factor for renal dysfunction in male HIV-infected Japanese patients receiving antiretroviral therapy: a pilot study.	Int J STD AIDS, 29(14), 1424-1431, Dec, 2018	OriginalArticle
28	Okuhara Yoshitaka, Yokoe Shunichi, Asahi Michio 他	循環器内科	Interleukin-18 in cardiomyocyte: A novel therapeutic target for attenuating cardiac remodeling. Response.	Int J Cardiol, 266, 221, Sep, 2018	others
29	Kaneko T, Kariya N, Hirose M	麻酔科・疼痛制御科	Association between intraoperative phenylephrine administration and umbilical artery pH in women with hypertensive disorders of pregnancy: a retrospective cohort study.	J Anesth. , 32(6), 893-900, Dec, 2018	OriginalArticle
30	Miwa Hiroto, Oshima Tadayuki, Tomita Toshihiko 他	消化管内科	Recent understanding of the pathophysiology of functional dyspepsia: role of the duodenum as the pathogenic center. Journal of Gastroenterology	J Gastroenterol. , (00535), 1-7, Jan, 2019	OriginalArticle
31	Kitajima Kazuhiro, Yamamoto Shingo, Kawanaka Yusuke 他	核医学・PET診療部	Imaging of renal cell carcinoma in patients with acquired cystic disease of the kidney: comparison11	Jpn J Radiol, 37(2), 165-177, Oct, 2018	OriginalArticle
32	Nishikawa Hiroki, Enomoto Hirayuki, Yoh Kazunori 他	肝・胆・膵内科	Serum Zinc Concentration and Sarcopenia: A Close Linkage in Chronic Liver Diseases.	J Clin Med, 8(3), 336, Mar, 2019	OriginalArticle
33	Nishikawa Hiroki, Enomoto Hirayuki, Kazunori Yoh 他	肝・胆・膵内科	Health-Related Quality of Life in Chronic Liver Diseases: A Strong Impact of Hand Grip Strength.	J Clin Med. , 7(12), pii:E553, Dec, 2018	OriginalArticle
34	Nagao Yoichiro, Nakajima Makoto, Hirahara Tomoo 他	脳卒中センター	Calcified cerebral embolism due to a calcified amorphous tumor.	J Stroke Cerebrovasc Dis, 27(7), e115-e116, Jul, 2018	CaseReport
35	Uchiyama Yuki, Koyama Tetsuo, Wada Yousuke 他	リハビリテーション部	Botulinum Toxin Type A Treatment Combined with Intensive Rehabilitation for Gait Poststroke: A Preliminary Study.	J Stroke Cerebrovasc Dis, 27(7), 1975-1986, Jul, 2018	OriginalArticle
36	Kawakami Rika, Hao Hiroyuki, Imanaka Takahiro 他	病理診断科	Initial pathological responses of second-generation everolimus-eluting stents implantation in Japanese coronary arteries: Comparison with first-generation sirolimus-eluting stents.	J Cardiol, 71(5), 452-457, May, 2018	OriginalArticle
37	Nagai Makoto, Imai Yasutomo, Yamanishi Kiyofumi	皮膚科	Psoriasisiform dermatitis associated with common variable immunodeficiency 10 due to an Arg853* mutation in the NFKB2 gene	J Dermatol, 46(1), e24-e26, Jan, 2019	CaseReport
38	Kusunoki Hiroshi, Iwashima Yoshio, Kawano Yuhei 他	総合内科	Circadian hemodynamic characteristics in hypertensive patients with primary aldosteronism.	J Hypertens, 36(11), 2260-8, Nov, 2018	OriginalArticle
39	Otani Naruhito, Shima Masayuki, Ueda Takashi 他	感染制御部	Relationship between the frequency of influenza vaccination and cell-mediated immunity	J Immunol Methods, 458, 58-62, Jul, 2018	OriginalArticle
40	Hikasa Shinichi, Sawada Akihiro, Seino Hitomi 他	薬剤部	A potential drug interaction between phenobarbital and dolutegravir: A case report.	J Infect Chemother, 24(6), 476-478, Jun, 2018	CaseReport
41	Tsuzuki Kenzo, Hashimoto Kengo, Okazaki Ken 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Post-operative course prediction during endoscopic sinus surgery in patients with chronic rhinosinusitis.	J Laryngol Otol, 132(5), 408-17, May, 2018	OriginalArticle
42	Yamasaki Takahisa, Tomita Toshihiko, Mori Sumire 他	消化管内科	Esophagography in Patients With Esophageal Achalasia Diagnosed With High-resolution Esophageal Manometry.	J Neurogastroenterol Motil, 24(3), 403-409, Jul, 2018	OriginalArticle
43	Fukui Hirokazu, Xu Xin, Miwa Hiroto	消化管内科	Role of Gut Microbiota-Gut Hormone Axis in the Pathophysiology of Functional Gastrointestinal Disorders.	J Neurogastroenterol Motil, 24(3), 367-386, Jul, 2018	OriginalArticle
44	Oshima Tadayuki, Miwa Hiroto	消化管内科	Potent Potassium-competitive Acid Blockers: A New Era for the Treatment of Acid-related Diseases.	J Neurogastroenterol Motil, 24(3), 334-344, Jul, 2018	OriginalArticle
45	Yoshimura Shinichi, Sakai Nobuyuki, Uchida Kazutaka 他	脳神経外科	Endovascular therapy in ischemic stroke with acute large vessel occlusion: Recovery by endovascular salvage for cerebral ultra-acute embolism Japan Registry 2.	J Am Heart Assoc, 7(9), e008796, Apr, 2018	OriginalArticle

46	Nanami Masayoshi, Truyen D. Pham, Young Hee Kim 他	腎・透析内科	The Role of Intercalated Cell Nedd4-2 in BP Regulation, Ion Transport, and Transporter Expression.	J Am Soc Nephrol, 29(6), 1706-1719, Jun, 2018	OriginalArticle
47	Yamanishi Kyosuke, Maeda Seishi, Kuwahara-Otani Sachi 他	精神科神経科	Deficiency in interleukin-18 promotes differentiation of brown adipose tissue resulting in fat accumulation despite dyslipidemia.	J Transl Med, 16(1), 314, Nov, 2018	OriginalArticle
48	Hasuie Yukiko, Kakita Naoto, Aichi Makoto 他	腎・透析内科	Imbalance of coagulation and fibrinolysis can predict vascular access failure in patients on hemodialysis after vascular access intervention.	J Vasc Surg, 15, pii: S0741-5214(18)30987-X, Jun, 2018	OriginalArticle
49	Nakayama Hiroshi, Schröter Steffen, Yamamoto Chie 他	整形外科	Large correction in opening wedge high tibial osteotomy with resultant joint-line obliquity induces excessive shear stress on the articular cartilage.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc, 26(6), 1873-8, Jun, 2018	OriginalArticle
50	Inoue Yoshihito, Fukui Hirokazu, Xu Xin 他	消化管内科	Colonic M1 macrophage is associated with the prolongation of gastrointestinal motility and obesity in mice treated with vancomycin	Mol Med Rep. , 10(3892), 2591-2598, Jan, 2019	OriginalArticle
51	Minami Toshiyuki, Kinehara Yuhei, Morimura Osamu 他	呼吸器内科	Challenges for the development of immunotherapy in small-cell lung cancer.	Med Res Arch. , 6(6), 1-15, Jun, 2018	review
52	Hirose M, Kobayashi Y, Nakamoto S 他	麻酔科・疼痛制御科	Development of Hemodynamic Model Using Routine Monitoring Parameters for Nociceptive Responses Evaluation During Surgery Under General Anesthesia.	Med Sci Monit. , 2018(24), 3324-3331, May, 2018	OriginalArticle
53	Furukawa Tetsuya, Matsui Kiyoshi, Kitano Masayasu 他	リウマチ・膠原病内科	Relationship between YKL-40 and pulmonary arterial hypertension in systemic sclerosis	Mod Rheumatol, 6(1480256), 1-2, May, 2018	OriginalArticle
54	Furukawa Tetsuya, Matsui Kiyoshi, Kitano Masayasu 他	リウマチ・膠原病内科	Relationship between YKL-40 and Pulmonary Arterial Hypertension in Systemic Sclerosis.	Mod Rheumatol, 23, 1-21, May, 2018	OriginalArticle
55	Enomoto Hirayuki, Inoue Shinichi, Matsuhisa Akio 他	肝・胆・膵内科	Amplification of bacterial genomic DNA from all ascitic fluids with a highly sensitive polymerase chain reaction.	Mol Med Rep. , 18(2), 2117-2123, Aug, 2018	OriginalArticle
56	Negi Yoshiki, Kuribayashi Kozo, Doi Hiroshi 他	呼吸器内科	Double cancer comprising malignant pleural mesothelioma and squamous cell carcinoma of the lung treated with radiotherapy: A case report.	Mol Clin Oncol. , 9(2), 181-186, Aug, 2018	CaseReport
57	Tamaki Kayoko, Kusunoki Hiroshi, Tsuji Shotaro 他	総合内科	The Relationship between Dietary Habits and Frailty in Rural Japanese Community-Dwelling Older Adults: Cross-Sectional Observation Study Using a Brief Self-Administered Dietary History Questionnaire.	Nutrients, 10(12), doi:10.3390/nu10121982, Dec, 2018	OriginalArticle
58	Nishikawa Hiroki, Yoh Kazunori, Enomoto Hirayuki 他	肝・胆・膵内科	The Relationship between Controlling Nutritional (CONUT) Score and Clinical Markers among Adults with Hepatitis C Virus Related Liver Cirrhosis.	Nutrients, 10(9), pii: E1185. , Aug, 2018	OriginalArticle
59	Nishikawa Hiroki, Yoh Kazunori, Enomoto Hirayuki 他	肝・胆・膵内科	Extracellular Water to Total Body Water Ratio in Viral Liver Diseases: A Study Using Bioimpedance Analysis.	Nutrients, 10(8), pii: E1072. , Aug, 2018	OriginalArticle
60	Fukuyama Hisashi, Iwami Hisashi, Araki Takashi 他	眼科	Indocyanine green dye filling time for polypoidal lesions in polypoidal choroidal vasculopathy affects the visibility of the lesions on OCT angiography	Ophthalmol Retina. , 2(8), 803-7, Aug, 2018	OriginalArticle
61	Sota Koichiro, Uchiyama Yuki, Ochi Mitsuhiro 他	リハビリテーション部	Examination of factors related to the effect of improving gait speed with functional electrical stimulation intervention for patients with stroke	PM R. , 10(8), 798-805, Aug, 2018	OriginalArticle
62	Okuhara Yoshitaka, Asakura Masanori, Azuma Kohei 他	循環器内科	Effects of early diuretic response to carperitide in acute decompensated heart failure treatment: A single-center retrospective study.	PLoS One, 13(6), e0199263, Jun, 2018	OriginalArticle
63	Shimatani Kimihiro, Yamada Yusuke, Nojima Michio 他	泌尿器科	Histologically confirmed BK virus nephropathy without antecedent urine decoy cells after renal transplantation: Case Report.	Renal Transplantation Vascular Surgery, 29(1), 79-82, May, 2018	CaseReport
64	Jomoto Wataru, Tanooka Masao, Wakayama Tsukasa 他	泌尿器科	Evaluation of local look diffusion tensor imaging for magnetic resonance tractography of the periprostatic neurovascular bundle.	Radiol Phys Technol, 11(3), 353-359, Sep, 2018	OriginalArticle
65	Ukita Yuji, Wakimoto Yu, Sugiyama Yukiko 他	泌尿器科	Fertility preservation and pregnancy outcomes in adolescent and young adult male patients with cancer.	Reprod Med Biol, 17(4), 449-453, Oct, 2018	OriginalArticle
66	Fukui Hirokazu, Oshima Tadayuki, Tanaka Yoshiaki 他	消化管内科	Effect of probiotic Bifidobacterium bifidum G9-1 on the relationship between gut microbiota profile and stress sensitivity in maternally separated rats.	Sci Rep. , 17(8), 1-10, Aug, 2018	OriginalArticle
67	Kazutaka Uchida, Shinichi Yoshimura, Nagayasu Hiyama 他	脳神経外科	Clinical prediction rules to classify types of stroke at prehospital stage.	Stroke, 49(8), 1820-1827, Aug, 2018	OriginalArticle
68	Wakasugi Tatsushi, Morishita Shinichiro, Kaida Katsuji 他	リハビリテーション部	Impaired skeletal muscle oxygenation following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation is associate with exercise capacity	Support Care Cancer, 26(7), 2149-2160, Jul, 2018	OriginalArticle
69	Amano Satoru, Umeji Atsushi, Uchida Akira 他	リハビリテーション部	Reliability of remote evaluation for the Fugl Meyer assessment and the action research arm test in hemiparetic patients after stroke	Top Stroke Rehabil. , 20, 1-6, Jul, 2018	OriginalArticle

70	Amano Satoru, Umeji Atsushi, Uchita Akira 他	リハビリテーション部	Clinimetric properties of the Fugl-Meyer assessment with adapted guidelines for the assessment of arm function in hemiparetic patients after stroke	Top Stroke Rehabil. ,20, 1-9, Jul, 2018	OriginalArticle
71	Matsukawa Hidetoshi, Kamiyama Hiroyasu, Miyazaki Takanori 他	脳神経外科	Surgical treatment of middle cerebral artery aneurysms: aneurysm location and size ratio as risk factors for neurologic worsening and ischemic complications.	World Neurosurg, 117, e563-e570, Jun, 2018	OriginalArticle
72	Tsubamoto Hiroshi, Ueda Tomoko, Inoue Kayo 他	産科婦人科	Effects of leuporelin for the treatment of recurrent gynecological cancer by assessment including self-administered quality-of-life questionnaire	J Obstet Gynaecol Res, 45(1), 203-9, Jan, 2019	OriginalArticle
73	Yamamoto Asami, Kimura Takahi, Watanabe Syouhei 他	脳神経内科	Clinical characteristics of patients with myasthenia gravis accompanied by psychiatric disorder	Neurol Clin Neurosci, 7, 65-70, Dec, 2018	OriginalArticle
74	Kusuyama Kazuki, Tachibana Toshiya, Yamanaka Hiroki 他	整形外科	Upregulation of calcium channel alpha-2-delta-1 subunit in dorsal horn contributes to spinal cord injury-induced tactile allodynia.	Spine J, 18, 1062-9, Jun, 2018	OriginalArticle

計5
合計74

- (注) 1. 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
2. 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）
3. 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al. とする。
4. 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
5. 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）；巻数：該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
- 記載例： Lancet. 2015 Dec；386：2367-9 / Lancet. 2015 Dec（オンライン）
6. 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	④・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	④・無
・ 手順書の主な内容 審査及び審査の範囲、申請手続き、他の研究機関の研究にかかる倫理審査、倫理審査委員の教育、利益相反等について記載	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	④・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	④・無
・ 規定の主な内容 COIマネジメント指針、マネジメント対象者及び対象事項、COIマネジメント委員会の設置及び運営、学外への情報公開等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年23回 (月1回及び随時)

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 【研究者倫理講習会 (※web受講)】 日時：2019年2月20日(水)～	

講師：兵庫医科大学 倫理審査委員会・臨床研究審査委員会 委員長

麻痺科学・疼痛制御科学 廣瀬 宗孝 主任教授

参加者：697人（※2019年5月20日時点）

（注）前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期臨床研修を修了した卒後 3 年目以上の医師を対象に専門医を目指すための専門的な研修を行う。当該研修においては、専攻分野ごとに研修プログラムを策定し、研修目標・到達目標の設定や、年次ごとのカリキュラムの設定を通して、効果的な研修が実施できるよう配慮している。

なお、多数の症例を経験させるために、関連病院とも協働して研修を実施している。

また、専攻分野によっては、研修期間中に大学院へと進学し、研究を行うことを可能としているものもある。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	185.8人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
			年	
澤田 暁宏	血液内科	助教	23年	
松井 聖	リウマチ・膠原病内科	臨床教授	36年	アレルギー科の研修統括者も兼ねている
庄司 拓仁	糖尿病・内分泌・代謝内科	准教授	22年	
榎本 平之	肝・胆・膵内科	准教授	26年	
栗林 康造	呼吸器内科	臨床教授	23年	
武田 正中	神経内科	臨床教授	35年	
長澤 康行	腎・透析内科	講師	25年	
赤堀 宏州	循環器内科/冠疾患内科	講師	16年	
戸澤 勝之	消化管内科	学内講師	18年	
樋田 信幸	炎症性腸疾患内科	准教授	22年	
新村 健	総合内科	主任教授	33年	
坂口 太一	心臓血管外科	主任教授	27年	
長谷川 誠紀	呼吸器外科	主任教授	36年	
篠原 尚	上部消化管外科	主任教授	32年	
富田 尚裕	下部消化管外科	主任教授	39年	
池内 浩基	炎症性腸疾患外科	主任教授	32年	
三好 康雄	乳腺・内分泌外科	教授	35年	
大植 孝治	小児外科	教授	34年	
波多野 悦朗	肝・胆・膵外科	臨床教授	31年	
平田 淳一	救命救急センタ	主任教授	19年	

	—			
廣瀬 宗孝	麻酔科・疼痛制御科	主任教授	32年	
竹島 泰弘	小児科	主任教授	33年	
清野 仁美	精神科神経科	講師	19年	
柴原 浩章	産科婦人科	主任教授	35年	
中山 寛	整形外科	助教	18年	
垣淵 正男	形成外科	主任教授	33年	
吉村 紳一	脳神経外科	主任教授	30年	
山西 清文	皮膚科	主任教授	38年	
山本 新吾	泌尿器科	主任教授	32年	
五味 文	眼科	助教	34年	
阪上 雅史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	主任教授	39年	
山門 亨一郎	放射線科	主任教授	41年	
竹田 健太	I C U	講師	20年	
道免 和久	リハビリテーション科	主任教授	33年	
廣田 誠一	病理診断科	主任教授	35年	
廣瀬 宗孝	ペインクリニック部	主任教授	32年	
富田 寿彦	内視鏡センター	准教授	22年	
飯島 尋子	超音波センター	教授	36年	
田端 千春	がんセンター	准教授	27年	
中嶋 一彦	感染制御部	講師	24年	
正木 充	臨床検査科	講師	20年	
岸本 裕充	歯科口腔外科	主任教授	32年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 （看護師）・専門看護師・認定看護師取得に係る研修をはじめとした急性期医療の現場における実践研修 ・学会認定・臨床輸血看護師の認定にかかる指定施設研修 （看護師・管理栄養士）栄養サポートチーム専門療法士の認定にかかる臨床臨地修練 （臨床検査技師）認定輸血検査技師の認定にかかる指定施設研修 （臨床工学技士）医療機器の安全使用についての知識と技術の習得を図り、より質の高い臨床工学技士を育成することを目的とした研修 ・研修の期間・実施回数 （看護師）6回 延べ138日 （看護師・管理栄養士）1回 延べ15日 （臨床検査技師）1回 延べ2日 （臨床工学技士）1回 延べ10日 ・研修の参加人数 （看護師）13名 （管理栄養士）1名 （臨床検査技師）1名 （臨床工学技士）1名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	①. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 阪上 雅史
管理担当者氏名	管理課長 鈴木 明良、 医事課長 春木 敏弘 診療支援課長 春木 敏弘、 薬剤部長 木村 健

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	管理課
		各科診療日誌	診療各科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療支援課、診療各科
		看護記録	診療各科
		検査所見記録	診療支援課、診療各科
		エックス線写真	診療支援課
		紹介状	診療支援課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療支援課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課
		高度の医療の研修の実績	管理課
		閲覧実績	—
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	管理課 薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	電子媒体及び紙媒体をファイリングすることで管理している。 一部指針等については院内向けホームページでも公開している
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部 管理課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	

		保 管 場 所	管 理 方 法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則 第九 条の 二十 の二 第二 項第 一 号 から 第十 三 号 まで 及び 第十 五 条の 四各 号に 掲げ る事 項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 管理課	電子媒体及び紙媒体を ファイリングすること で管理している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部 管理課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	管理課	
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部 感染制御部 管理課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部	
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部 管理課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		管理者が有する権限に関する状況	管理課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務部	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6) 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 入江 猛	
閲覧担当者氏名	管理課長 鈴木 明良 医事課長 春木 敏弘 診療支援課長 春木 敏弘	
閲覧の求めに応じる場所	管理課会議室、医事課会議室	
閲覧の手続の概要		
諸記録の閲覧を請求できる者である病院に患者を紹介しようとする医師及び歯科医師並びに国及び地方公共団体は、当院病院事務部長に「兵庫医科大学病院諸記録閲覧申請書」に必要事項を記入の上申請を行うことで閲覧の許可を得ることができる。		

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・無
・ 指針の主な内容： I. はじめに II. 医療安全管理体制確保のための委員会規約 ・ 医療安全管理規程 - 医療安全管理体制 - 職員に対する教育・研修に関する事項 - 医療事故発生時の対応・報告・分析等に関する事項 ・ 医療安全管理者の業務指針 III. 当院における医療安全管理体制図 ・ 医療事故発生時の対応 ・ 院内救急医療体制 ・ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する事項 ・ 患者からの相談への対応に関する事項 IV. 院内死亡患者における届出について V. 兵庫医科大学病院における異状死体の届出に関する基準 VI. 医療事故を起こした職員・当該部署職員への心理的支援について VII. 大学附属病院における医療上の事故等の公表に関する指針 VIII. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無 (有 ・無) ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： ①以下についての審議 - 安全管理のための指針、マニュアル等の作成・改訂 - 医療事故発生時の対応、職員への周知	

セイフティマネージャーの活動 安全管理に関する教育・研修 ②医療事故等の分析、改善策の立案 ③特定事項の安全管理対策の検討 ④死亡報告事例の確認	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年17回
・ 研修の内容（すべて）： ■医療講演会 ①2018年5月22日（火） 「ノンテクニカルスキルはチーム医療への処方箋 ―悪の組織をめざして―」 ②2018年7月9日（月） 「医療メディエーション ―対話と関係調整のモデル―」 ③2018年10月12日（水） 「他院の重要事例を参考に ―医薬品に係わる事故を防ぐ―」 ④2018年12月3日（火） 「ME機器の安全使用について」 「MR検査室における医療安全」 ■ 多職種協働ワークショップ 2018年9月15日（土） インフォームドコンセント・ロールプレイ演習① 2019年2月2日（土） インフォームドコンセント・ロールプレイ演習② ■ M&Mカンファレンス 2018年5月14日（月） ■ ミニレクチャー 10回開催した。	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況
・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ ☒ 有 ・ 無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ① 発生したインシデント・アクシデントに対して、部長、副部長・統括・専従セーフティマネージャーが発生部門のセーフティマネージャーと共に、内容分析、改善策の検討並びに患者・家族への対応の指示を行っている。医療安全管理委員会委員及び各部のセーフティマネージャーから構成される「オンラインインシデント検討会」を毎週開催し、部門に改善策の助言提案を行うことにしている。必要に応じて医療事故検討会を開催し、医療事故等の原因分析・改善策の検討を行っている。 ② 報告のあった医療事故に対し、医療安全委員会等で原因を分析し、対応・改善策の分析を行っている。事案に応じて事故発生1か月後・3か月後（必要時6ヶ月後）に医療安全管理部（統括・専従SM）と当該部署のセーフティマネージャーが、改善策の実施状況を検証し、医療安全管理委員会に報告している。 ③ 発生したインシデント・アクシデント内容によりテーマを設定し、看護部事故防止委員会・各部署のセーフティマネージャーと連携して、毎週院内監査ラウンドなどを実施している。 ④ 毎年6月と2月の医療安全強化月間には、テーマを決め各部署の安全への取り組みを奨励支援している。同時に医療安全管理委員会の委員のラウンドを企画し、広く現場の現状を把握し他部署の見学・現場確認をするなどの機会となっている。 ⑤ 医療安全NEWSを毎月発行し、当院のインシデント・アクシデント情報・再発防止策・事故後の検証結果、他施設の事故事例、医療安全情報（厚生労働省・各種学会・PMDA等）などを掲載し、職員に周知している。 ⑥ 全医療人を対象に、当院で発生したインシデント・アクシデントを教材にして、「多職種協働ワークショップ」を開催し、院内で発生した有害事象の共有、多職種連携の強化に努めている。 ⑦ 医療の質、安全性の強化およびガバナンス強化の一環として、M&Mカンファレンスを定期的に行っている。 ⑧ 初期研修医に対し、インシデント発生要因の分析や再発防止策を検討する機会を設け、医療安全管理委員会等で報告することによって、医療安全意識のボトムアップ効果と将来的な医師によるインシデント報告の増加を目指し、医療安全教育の一環として行っている。 ⑨ 医療安全管理部の下部組織である「エコーガイド下CVC挿入推進チーム」「RRSチーム」と共に安全な医療提供にむけ臨床現場での課題の把握と対策の実施、及び職員教育を行っている。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☒ ・無
・ 指針の主な内容： ①感染管理に関する基本的な考え方 ②感染管理体制 ③職員の教育・研修 ④感染症の発生時の報告 ⑤感染症の発生状況の報告 ⑥感染症の発生時の対応 ⑦病院感染対策のための指針の閲覧 ⑧病院感染対策のための指針の見直し・改正	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： 病院感染対策に関する事項を調査・審議し、院内感染症発生時の原因の分析、改善策の立案、実践、周知等感染管理を推進している。なお、必要があるときには臨時で開催する。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
・ 研修の内容（すべて）： 病院感染制御に対する基本的な考え方及び具体的施策の周知、業務を遂行する上での知識・技能の向上及び病院感染制御に対する意識の高揚を目的として、教育・研修を実施している。 ●病院感染制御をテーマとする講演会を開催(全職員対象) …年4回 2018年6月5日(火) テーマ：「知っておきたい耐性菌とその対策～抗菌薬適正使用を含めて～」 2018年7月9日(月)～7月13日(金)、9月10日(月)～9月14日(金) テーマ：「クリーンハンドキャンペーン(アルコール手指消毒)」 2018年10月12日(金) テーマ：「手術部位感染対策～手術時予防抗菌薬を含めて～」 2018年12月3日(月)	

テーマ：「ノロウイルス・インフルエンザ」

●職種別研修

以下の職種を対象に研修、教育、指導を実施

【看護師】

①標準予防策（シミュレーション）②手指衛生向上プロジェクト

【感染リンクナース】

①手指衛生 ②感染管理支援システム（ICT Web）を用いた耐性菌把握方法 ③結核対応 ④風疹
⑤インフルエンザ ⑥耐性菌

【看護助手】

①清掃手順について（退院時、浴室清掃）

【看護事務員】

①インフルエンザ、ノロウイルスおよび感染管理支援システム（ICT Web）を用いた耐性菌把握方法

【清掃職員（委託業者）】

①清掃における感染対策

【NICU/GCUスタッフ】

MRSA増加に伴い、手指衛生、個人防護具着脱に関する教育、指導を実施

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

病院で取り決めた感染症発生に係る報告があった事例は「感染症発生時の対応パターン分類」に基づき感染制御部が判断し、必要により感染対策委員会で審議し対策を講じる。また、耐性菌については、別途レベル分類を設けており、レベルに応じた予防策・対応を行う。感染と保菌を判断し、抗菌薬の適正使用支援を行う。

アウトブレイクを疑う事例が発生した場合は、「アウトブレイク発生時の対応」に基づき対応す

る。アウトブレイクの可能性が高いと判断した場合、感染制御部による原因の究明ならびに拡大防止策を実施する。更にレベル4以上の多剤耐性菌については、1例目の検出からアウトブレイク対応として迅速に対応することとしている。

院内の感染症治療および抗菌薬の適正使用支援に関しては、抗菌薬適正使用支援ラウンドとして、感染症治療に関するコンサルテーションに対する対応、ICUでの重症患者治療、無菌検体から検出した病原体への治療介入、新規耐性菌に対する感染症の評価（必要時治療介入）およびタゾバクタム/ピペラシリン使用症例の翌日評価とフィードバックを行う。抗緑膿菌活性を有する抗菌薬の使用割合をDOT（1000患者日あたりの使用日数）で評価し、カルバペネム系25%、タゾバクタム/ピペラシリン35%、第4世代セファロスポリン系/セフトジジム25%、ニューキノロン系15%を目標として使用割合をコントロールし、抗菌薬の適正使用を推進している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☒ ・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年5回
・ 研修の主な内容： ① 新入職オリエンテーション 2018年4月2日 テーマ 「医療安全管理」（医薬品安全管理含む） 講 師 兵庫医科大学病院 医療安全管理部 堀田 牧代 ② 臨床研修医オリエンテーション 2018年4月4日 テーマ 「医薬品の安全使用について」 講 師 兵庫医科大学病院 薬剤部 柳井 美奈 ③ 新人看護職員研修 2018年4月6日 テーマ 「与薬に関する基礎知識」 講 師 兵庫医科大学病院 看護部 担当副師長 ④ 医療講演会 2018年10月12日 DVD補講 10月18・19・22・23・24・25・26日 計11回 テーマ 「他院の事例を教訓に～医薬品に関わる事故を防ぐ」 講 師 兵庫医科大学病院 薬剤部 木村 健 ⑤ 医療安全ミニレクチャー 平成29年10月27日 テーマ 「医療安全と薬剤」 講 師 兵庫医科大学病院 医療安全管理部 三上 ひとみ ⑥ その他 病棟薬剤師などから各診療科・病棟に医薬品安全管理に関するレクチャーを実施 錠剤、カプセル剤の粉碎について、簡易懸濁法について、化学療法施行の注意事項、副作用についてなど (2018年4月～2019年3月までで207件)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
手順書の作成 (☒・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ・ 病院で用いる医薬品の採用・購入などに関する事項 ・ 医薬品の管理に関する事項 ・ 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項	

- ・患者に対する与薬や服薬指導に関する事項
- ・医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項
- ・他施設との連携に関する事項
- ・放射性医薬品の取り扱いに関する事項
- ・院内製剤の調製及び使用に関する事項
- ・未承認新規医薬品等の使用に関する事項
- ・未承認等の医薬品の使用に関する事項

医薬品の安全使用のための業務手順書に基づく業務の実施については、業務確認票を用いてチェックしている。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：

未承認等の医薬品（適応外使用又は禁忌使用）は、各診療科が未承認新規医薬品等評価委員会に届け出ることによって病院として把握するシステムが構築されている。具体的な使用事例としては、オクトレオチド(サンドスタチン)皮下注用を先天性乳び胸に対し持続静脈内投与しており、これは添付文書上の適応はなく投与経路も異なる。しかし、使用経験の文献も多く出ており病院としては適応外使用として把握している。同様に、天疱瘡にシクロスポリンを使用しているが、ガイドラインにも記載されており、TDMを行いながらの投与となっていることを病院として把握している。
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 保険診療等で適用が承認されていない治療、薬品等の使用を行う緊急避難的な治療を行う場合、医療倫理委員会に申請して審査を受けることができる。
 - ・ 医師の処方した薬剤の使用が未承認医薬品の使用若しくは適応外又は禁忌等の使用方法に該当することを発見した医師・薬剤師等は、薬学的見地に基づき必要に応じて処方した医師等に対して、処方の必要性や妥当性等を確認し処方の変更等の提案を行っている。
 - ・ 緊急安全性情報、安全性速報などの迅速な対応を必要とする情報提供はその経過の記録を保管している。その他、必要に応じて医薬品適正使用のために周知すべき注意喚起情報は、月

1回の医療安全ニュースに掲載し、その閲覧状況を確認している。

- ・医薬品安全管理責任者に指名された担当者は、院内の医薬品の使用状況を月一回程度定期的に確認し、その結果を踏まえて添付文書情報（禁忌等）、緊急安全性情報、安全性速報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に関わる情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年112回
研修の主な内容： 以下の機器を中心に取り扱い方法・安全対策について研修を行っている 人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・補助循環装置・保育器・輸液ポンプ・医療ガス・放射線機器等	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 医療機器に係る計画の策定 (☒有・無) - 機器ごとの保守点検の主な内容： 以下の装置に対しては保守点検を実施している - 人工呼吸器・血液透析装置・血液浄化装置・補助循環装置・保育器 - 体外式ペースメーカー・輸液ポンプ・シリンジポンプ・除細動器・電気メス - 生体情報モニタ・麻酔器・放射線機器	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒有・無) - 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： - その他の改善のための方策の主な内容：	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・ 責任者の資格 (有 医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ◇ 医療安全管理責任者（医療安全管理部長）は、医療安全管理者（医療安全管理部副部長、統括専従セイフティマネージャー）とともに、病院長から委譲された権限に基づいて、安全管理に関する院内の体制を構築し、医療安全管理委員会の円滑な運営を図っている。 ◇ 医療安全管理責任者は、委員会を開催、議事進行を行い、決議事項を病院長に報告している。 ◇ 医療安全管理部は、委員会で決定された方針に基づき業務を行う。 ◇ 医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者は、管理部の構成員として医療安全管理責任者と連携し、職種・部門間の調整を図りながら、医療機器の安全性が確保されるように、医薬品の安全使用を高めるように、それぞれの業務を行っている。 ◇ それぞれ器機、医薬品に関連した重大アクシデントが発生した場合、速やかに委員会（医療安全管理責任者）に報告し、共に分析し対策を立案している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（6名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師（医薬品安全管理者）が、院内の医薬品の使用状況を月一回程度定期的に確認し、その結果を踏まえて添付文書情報、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告している。医薬品安全管理責任者は報告された情報を踏まえて、必要に応じて医薬品安全管理者に指示して DI ニュースで当該情報を院内に通知している。特に重要な情報については医療安全ニュースの「医薬品安全使用のための注意喚起情報」に掲載し、その周知状況については全診療科の閲覧記録を確認している。また、これらの手順は医薬品の安全使用のための業務手順書に記載して院内に周知させている。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認等の医薬品（適応外使用又は禁忌使用）は、各診療科が未承認新規医薬品等評価委員会に	

届け出ることによって病院として把握するシステムが構築されている。未承認新規医薬品等評価委員会は必要に応じて当該診療科に対して指導を行う。また、医薬品が適応外又は禁忌等で使用されたことを発見した医師・薬剤師等は、薬学的見地に基づいて必要に応じて処方した医師等に対して疑義照会を行う。 ・担当者の指名の有無 ☒ 有・無 ・担当者の所属・職種：（所属：薬剤部・職種：薬剤師）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ 有・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ☒ 有・無 ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 ・責任者には病院長の管轄下に、診療情報管理室長（医師）を選任し、同室長のもと診療情報管理士による診療録を管理・統轄している。 ・医師・看護師・診療情報管理士等から構成される診療録管理委員会委員が、対象診療科の医師（病棟医長）並びに看護師長、立ち会いの下、「オーディット」を実施（全診療科対象。毎年2回に分けて実施）	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ 有・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 責任者には病院長の直轄下に、診療情報管理室長（医師）を設置（選任）しており、診療情報管理士による診療録管理の統轄を行っている。また毎年2回に分けて、全診療科を対象に、診療録管理委員長の監督下による診療録管理委員会の委員（医師、看護師、診療情報管理士）が、対象となる診療科の医師（病棟医長）並びに看護師長、立ち会いの下、「オーディット」を実施している。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ 有・無
・所属職員：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（12）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（6）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること 活動の主な内容： ①安全管理体制の構築、委員会の運営、指針、マニュアルの改訂など	

②医療事故を防止するための情報収集、分析、改善策の立案、フィードバック、評価 ③改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言 ④安全管理対策の実施状況の調査、分析 ⑤セイフティマネージャーの活動支援 ⑥医療安全に関する職員への教育・研修の実施 ⑦医療事故への対応：届出・公表を含む事故発生後の対応、事故の要因分析 ⑧全死亡事例の検証（院内死亡患者届出票・死亡患者リスト） ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4 件）、及び許可件数（4 件） ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☐有・無） ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☐有・無） ・ 活動の主な内容： ①医療安全管理部の求めるところにより、高難度医療技術評価委員会を開催し（H30 年度 6 回開催）、当該高難度新規医療技術の提供の適否及び提供後に報告を求める症例等について、医療安全管理部の長に対して意見を述べること。 ② 高難度新規医療技術評価委員会の規程及び運用の見直し等を検討。 ③高難度新規医療技術実施後の合併症発生事例の実施者に対しヒアリングを行い、当該医療技術の継続の妥当性を検討する。 ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無） ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（3 件）、及び許可件数（3 件） ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）

・活動の主な内容：

診療科の長から提出された未承認新規医薬品等の申請内容を確認し、未承認新規医薬品等評価委員会に対して当該未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めている。評価委員会からの意見に基づき適否等について決定し、申請を行った診療科の長に対し適否結果通知書により通知を行い、また適否等の決定については病院長に報告を行っている。診療科の長は当該未承認新規医薬品等を用いた医療を提供した後は、未承認新規医薬品評価委員会が定める症例数、及び患者が死亡した場合、その他必要とされる場合には未承認新規医薬品等実施報告書を当部門に提出することになっており、また承認後1年毎に患者使用状況を提出することになっており、それに基づき診療録等の記載内容の確認を行い、当該未承認新規医薬品等を用いた医療が適正な手続きに基づいて提供されているかどうか確認している。また遵守状況の確認後はその内容を病院長に報告している。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 536 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 62 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

影響レベル3b以上の事例・事象は『事実関係報告書』を提出することとして、予期せぬ合併症、重篤な合併症事例の報告を受け委員会で検討している。

死亡事例報告に関しては、平成28年7月から『院内死亡患者届出票』の様式・運用を決定し提出を促して運用している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入（☒（病院名：川崎医科大学病院・国立循環器病センター）） ・他の特定機能病院等からの立入受入（☒（病院名：川崎医科大学病院・国立循環器病センター）） ・技術的助言の実施状況 ☆同意書の作成や改訂について情報がスムーズに共有できる対応を推奨された、医療安全管理部から委員として当院の診療録あり方委員会に参画して共有しているため継続する。また医療安全管理部に関わる委員会等に関して、整理・修正した新しい安全体制の構築を検討中。 ☆医薬品安全管理について添付文書の警告欄で定期検査に関する記載がある医薬品については、薬品情報管理室と共同して対象薬剤を調査しその後電子カルテでのポップアップ表示など対策を実行中。
⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況 患者及び患者家族からの相談は、医療支援センターを窓口としている。内容に応じて医療安全管理部・管理課医療安全係に連絡が入ることとなっている。また、診療科、病棟・外来を介しても医療安全管理部に連絡が入るので、その都度対応している。医療安全管理部員については、患者相談に応じるスキルアップの為、メディエーター研修等を適宜受講している。

⑫ 職員研修の実施状況
・研修の実施状況 ・医療講演会（年間4回開催） ① 医療機器に関して（放射線検査含む）※臨床工学部・放射線医療センターとの連携 ② コミュニケーションエラー予防に関して ※外部講師招聘 ③ 医薬品に係わる事故を防ぐ ※薬剤部との連携 ④ 医療メディエーションに関して ※外部講師招聘 ・多職種協働ワークショップ（年間2回開催） インフォームドコンセントロールプレイ： 医療者として自己の説明スキル、患者から求められている自己の専門職種の立場を知る。 ・医療安全ミニレクチャー（年間10回開催） その時々の特ピックス（事故調査制度など）、当院における医療安全の実際、実際の事例の検討など基本的な事柄を取り上げた小規模な研修。 ・M&Mカンファレンス 1回開催（4事例）各科の協力を得て開催。

--

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

特定機能病院管理者研修受講状況

2018. 11 管理者

2019. 1 医療安全管理責任者

医薬品安全管理者（薬剤部長）、

医療機器安全管理責任者

（前）管理者、

医薬品安全管理責任者

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
- 基準の主な内容 「人格、学識ともすぐれ、医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等、医療安全確保のために必要な資質・能力を備え、かつ兵庫医科大学病院の理念に沿い、病院の管理運営に必要な資質・能力を有する者」（兵庫医科大学病院長選考規程 第3条に規程） - 基準に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） - 公表の方法 本学ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（☒有・無） - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（☒有・無） - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（☒有・無） - 公表の方法 本学ホームページ	
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由	

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
西岡 清	法人	○	理事長が指名する理事若しくは評議員3名	☒ 有・無
鈴木 敬一郎	生化学		〃	☒ 有・無
西口 修平	内科学 内科学 肝胆膵科)		〃	☒ 有・無
三輪 洋人	内科学(消化管 科)		兵庫医科大学教授会から選出された臨床系教授2名	☒ 有・無
長谷川 誠紀	外科学(呼吸器外 科)		〃	☒ 有・無
丸山 美津子	看護部		看護部長、薬剤部長、放射線技術部長、臨床検査技術部長、病院事務部長の中から病院部長会で選出された者2名	☒ 有・無
入江 猛	病院事務部		〃	☒ 有・無
宮崎 浩彰	関西医科大学 医療 安全管理センター 理事長特命教授		外部有識者2名(病院経営、医療安全に関する外部有識者)	有・ ☒ 無
内山 和久	大阪医学大学 附属病院 病院長		〃	有・ ☒ 無

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		④・無	
・合議体の主要な審議内容 病院の管理運営に関して情報交換、情報共有を行うとともに、病院運営の円滑化、効率化や病院経営の健全化に向けて必要かつ重要な事項を審議する（合議体名：病院幹部会議 月2回開催） ・審議の概要の従業者への周知状況 病院部長会、医局長・病棟医長・外来医長合同会議等にて周知を行う。 また、当該合議体である病院幹部会議の規程第2条において、病院部長会への報告と職員の周知が定められている ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・☐無） ・公表の方法 院内ホームページに掲載 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・☐無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
阪上 雅史	○	医師	病院長
芳川 浩男		医師	副院長
三輪 洋人		医師	副院長
西 信一		医師	副院長
長谷川 誠紀		医師	副院長
丸山 美津子		看護師	副院長・看護部長
木村 健		薬剤師	薬剤部長
琴浦 規子		放射線技師	放射線技術部長
井垣 歩		臨床検査技師	臨床検査技術部長
入江 猛		事務職員	病院事務部長
木島 貴志		医師	がんセンター長
甲斐 義啓		事務職員	総務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒・無）
- 公表の方法
院内ホームページに掲載。
- 規程の主な内容
病院長の任務と権限、任期等
- 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
病院規程第4条において、病院長の職務を円滑にするため、副院長を置くことができるとあり現在、以下6名を配置している。

（所属・役職等） 脳神経内科診療部長 消化管内科診療部長 ICU部長 呼吸器外科診療部長 看護部部長	（担当） 地域連携、教育研究体制、新専門医制度 内科部門長、診療体制、広報 新病院棟建設、急性医療総合センター、 医療安全、危機管理、情報システム 外科部門長、 療養環境、患者サービス、病床管理
---	---
- 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 特定機能病院管理者研修
 （日付）

H29.12.25 - H29.12.26	H30.1.9 - H30.1.10	医療機器安全管理責任者
H30.2.21 - H30.2.22	H30.11.21 - H31.11.22	医療安全管理責任者
H30.11.21 - H31.11.22	H31.1.21 - H31.1.22	医薬品安全管理者
H31.1.21 - H31.1.22	H31.1.23	（現）管理者
		（前）管理者、医薬品安全管理責任者
		医薬品安全管理者、医療機器安全管理責任者、医療安全管理責任者

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	☒ ・無				
・監査委員会の開催状況：年2回 ・活動の主な内容： 病院長から、医療安全管理者、医療安全部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者等の業務が適切に実施されているか等について説明(報告)を求めると共に実施(立ち入り調査を含む)で監査を行う。 ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（☒・無） ・委員名簿の公表の有無（☒・無） ・委員の選定理由の公表の有無（☒・無） ・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（☒・無） ・公表の方法： 病院公式ホームページ					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
村尾 仁	大阪医科大付属病院	○	医師	無	1
夏住要一郎	色川法律事務所		弁護士	無	1
中西 清			医療を受ける者(公認会計士)	無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 内部監査室の設置と監査計画に基づく計画的な監査の実施、及び学校法人兵庫医科大学内部監査規程の制定 年度計画に基づく監事監査の実施と監事会の毎月開催、及び学校法人兵庫医科大学監事監査規程の制定 学校法人兵庫医科大学コンプライアンス委員会の設置、及び学校法人兵庫医科大学コンプライアンス規程の制定 ・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ ☒ 無) ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 年6回の理事会の開催 ・ 会議体の実施状況（ 年6回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年6回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ☒ 無 ） ・ 公表の方法			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況 ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 通報件数（年 0 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 周知の方法 内部監査室 → ホームページに掲載 管理課 → 教職員宛に通知のうえホームページに掲載 ※内部監査室が『学校法人兵庫医科大学公益通報者保護規程』に基づき、第三者の立場で通報を受け るほか、管理課にて病院職員意見箱を設置。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	☒ 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 2016年2月5日付 日本医療機能評価機構 病院機能評価（3rdG:Ver1.1）認定（一般病院2）。 2016年2月24日付 臨床検査室認定（ISO 15189：2012）認定。 2020年度 日本医療機能評価機構 病院機能評価受審予定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページや院内掲示を通じて、患者及び外部に対し診療実績（クリニカル・インディケーター）をはじめとした情報を発信している。また「学校法人兵庫医科大学広報」と「ここらいふ」の2誌を定期的に発行しており、連携病院に対しては送付による案内も行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 安全管理体制の強化を図るとともに、医療の質向上を目指し、複数診療科の医師、看護師をはじめとしたメディカルスタッフ等多職種からなる医療チームを編成し、適切な患者ケアや総合的な患者管理等を行う医療チーム及び医療従事者の質向上を目的とする合計11の医療チームを組織している。 （患者ケア等を目的とするもの） 感染対策チーム（ICT）、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム（NST）、 緩和ケアチーム、呼吸ケアチームおよびラピッドレスポンスチーム（RRST）、 精神科リエゾンチーム、周術期管理チーム、 （医療従事者の質向上を目的とするもの） エコーガイド下CVC挿入推進チーム、救命処置（BLS・ALS）推進チーム ※上記のほか、2019年度に入り、認知症ケア、院内排尿ケア、抗菌薬適正使用支援チームが設置されている（いずれも患者ケア等を目的とするもの）	